

3 「愛と胃袋」

NHK BSテレビで「愛と胃袋」というのを見た。4人の女流直木賞作家がそれぞれ、イタリア、スペイン、フランス、ポルトガルを旅して、それぞれの地の人に触れ料理を味わい、それを基にして物語を作る。この中でスペインのバスク地方に旅した、角田光代の創った物語がとても印象深かった。

角田光代は小さいころから母に「ちゃんと食べているか？」と、いつも言われていたことを感慨深げに語る。親、特に母親とは自分の子に対して、常にその様に思っているものだという。親は子が腹をすかしていないかどうかいつも心配しているものだ。

このことをモチーフに、バスクの村に育ち難民の世話をするため、村を離れて一人で暮らしている女性とその家族の物語を創作した。

番組の最後に、その物語をスペイン人の役者が演ずる。田舎にいる彼女の父親に同じセリフ「ちゃんと食べているか？」を言わせる。そのセリフを言うシチュエーションとタイミングが絶妙で、役者の演技もよかった。

すごいと思ったのはストーリー作りの巧みさである。たった10分ほどのドラマなのだが、さすが直木賞作家と唸らせるところがあり、自分にはそういう着想はとても無理だと思った。藤沢周平の短編でもそうだが、よくもあれだけ新しい物語が次から次へと出てくるものだと感心する。

(2010.10.31)